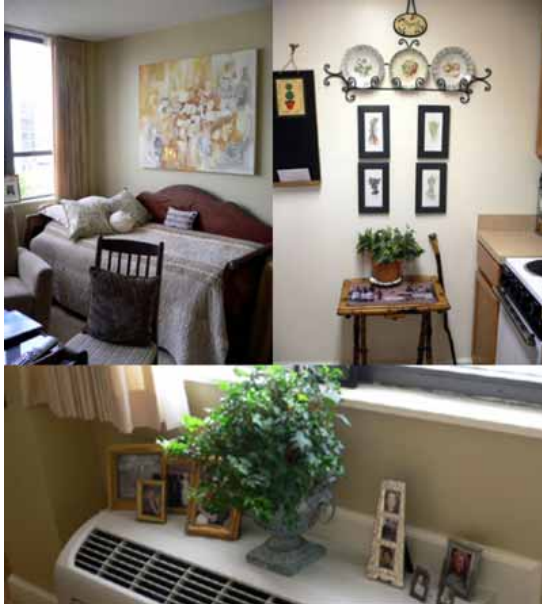


ステキなおばあちゃんと美しい環境

(株) イコールパートナーシップ 米澤 孝



【ルセランタワーのおばあちゃんの部屋】



【一昨年訪れたコペンハーゲンのおばあちゃんの部屋】

ルセランタワーはオランダにある都市型自立介護マンションで、3年前から手掛けている介護マンションにちかく、居住者の老人の部屋の中を見せてもらったことは非常に有意義でした。

一昨年北欧デンマークを旅行した際、偶然知り合った80歳になる一人暮らしのおばあちゃんの部屋を見せてもらった時もルセランタワーのおばあちゃんと同じ様に、日本ではインテリアコーディネーターになれる位きちんと片付けられ、自分が快適に暮らせるように工夫してコーディネートされていました。

我々が訪れるから片付けたと日本人的には思うかもしれませんが、デンマークのおばあちゃんがそうだった様に、突然訪ねても変わらないと思います。何故なら人に褒めてもらう為に部屋をコーディネートするのでは無く、自分が気持ち良く快適に、そして豊かに暮らす為だからです。

一人で住んでいる日本の老人達はなかなかこうはいきません。若い夫婦や若い人達の中にはインテリアもファッションと同じテイストに合わせ、こだわりのあるライフスタイルを確立しエンジョイしている人達もいますが、日本のトレンドを発信し続けていた「IDEE」という家具メーカーが無印良品の良品計画の傘下に入った事でも分かる様にそれほど売れてなく、また毎年開催される「デザイナーズウィーク」の表向きはジャパンファニチャーデザインの発信ですが、実際は家具メーカーのセールスプロモーションの一環で、現状はまだまだ成熟しているとは云えません。

私は“歳を取るほどオシャレが必要”だといつも思っています。思った通りルセラントワー
ーのお年寄りの半分くらいは食事の時にオシャレしていました。今の若者にはあまり無く
なりましたが、日本には普段着と余所行きがあり、人に見られなければあまりオシャレす
る習慣が無かったせいかもしれません。毎日を自分の為にオシャレし、少しキザと云わ
れる位インテリアやファッション、そして生き方を含めゴールドに輝く生活をして欲しい
と思います。



☆ルセラントワーの昼食をとっていたおばあちゃん。

笑顔もステキですがネックレスやクマさんも付けておしゃれしています。

この事は「ビレッジ」の様な大規模な開発は難しいとしても、これからの高齢化社会に向
けて、日本でも残り4分の1の人生を楽しく快適にする為のリタイアメントコミュニティ
に近い環境が出来た時、アメリカの様な一見美しい環境（一見と書いたのは滞在して表層
と同じ様に美しく生活出来るかどうかを実感していないので）を維持していく為に大切な
事だと思います。

ハードとしての環境を完成させる事はお金とデベロッパーの情熱があれば出来ます。しか
し維持する為には整理されたオペレーションシステムも必要ですが、そこに住む人の気持
ちが美しい環境を作り出す筈です。

家の前の芝を手入れし、四季折々の花を咲かせ、自分の家だけではなく周りの環境に配慮
し調和をとる事が、自分も楽しく気持ち良く生活する事に繋がり、そして隣人や環境に対
する思いやりのある心が芽生え、豊かな人生に繋がっていく事だと思うからです。

今回視察したアメリカの住宅街はクラクラするほど美しく、死ぬ迄に一度は住んでみた
いと思うような処ばかりでした。

アメリカの住宅開発は確かに美しくはありますが、目に見える形だけ取り入れるのではな
く、内面に潜んでいる“豊かな人生”を送る為のシステムを学ぶ事が重要だと思います。
それは日本の歴史や文化に基づいたコミュニティと界限（コミュニケーション出来る距離
感）そして明確な四季をもった美しい日本の自然をどうランドスケープに取り入れ、日本
人のもつ情緒や形である自然に対する繊細な感受性で真に日本人が美しいと思える環境を
構築する事だと思うのです。

例えば、新しく造る住宅街区のメインストリートには桜の並木を、各住戸の庭には梅や桃の木を植えて、春になったら花が吹きほころび、また山側の街区には秋になると山吹、橙、茜、紅柄、金茶、緋色など黄色から赤へとグラデーションし美しく紅葉する木を植える等、コミュニティに皆が共感し共有できる環境とその環境を通したイベントを作る事で、未来の中にも過去がある“レトロフューチャー”を表現する様な事です。

☆ウインザーのパームツリー並木と美しく手入れされている庭や建物のグリーンデコレーション。



☆日本の桜並木と黄色から赤へあらゆるグラデーションの紅葉と可憐な梅の花。



「アバコア」のデベロッパー、DIVOSTA HOMESの説明と案内をしてくれたアイリーンさんが何気なく云った一言が心に残っています。

『私もここに住んでいます。』

セールスの為でもあるかもしれませんが、キーワードはこれだ！！と思ったのです。大切な事はまず“ここに自分も住みたい”と思える環境を提案し、情熱をもって作り上げていく、その事が後に出てくる様々な難しい問題を解決する秘訣だと改めて実感しました。

デザインとはただ見た目が美しいだけではなく“生活し使いこなしてはじめて完成される”ので、自分が自信を持って奨めることのできる住宅作りが必要だと思うのです。

今回に限らず海外旅行や視察で感じる事は、新しい発見や感動はもちろんありますが、それと同じ様に日本を外から見つめ直し、忘れがちな日本の良さを再認識できるという事です。この体験は非常に貴重であり、それをこれからの自分の仕事にどう活かしていくか、その思いを胸に抱きつつ6日間の旅を終えました。